

a 学校教育目標	郷土を愛し、 自らの役割を見つけ、 全力で伸びようとする児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・自己を愛し、健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域を支え得る人材を育てる学校
----------	---	----------------------	---

評価計画					自己評価					改善方針	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					h 達成	h 達成					イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	児童の主体的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校	課題発見・解決学習に必要な力を高める学校	1 児童につけたい力を分析・整理する。 2 総合的な学習の時間におけるプロジェクト型学習の単元を開発する。 3 導入時に学習のねらいと見通しを児童に持たせる。 4 単元終了後にチェックシートで振り返りを行う。	・つけたい力の系統表が作成できたか。 ・単元を各学級1単元以上開発・実施できたか。 ・各手立てが有効に作用したか。	・系統表完成 ・中高学年、各1単元実施 ・チェックシートの全項目の50%以上で有効	100%	100%	100%	A	①④系統表をもとにチェックシートで児童と成長を振り返ったが、教師側が成長していると見取っていても、児童側がそれを認識していない姿があった。 ②児童の考えをもとに、問題を解決する方向付けを行いながら単元開発を進めたが、かなりの時間を費やした。 ③全学年において、思考ツールの活用や思考のギャップの積極的な活用を継続することができた。	成長の認識の共有 ①④つけたい力の具体を事前に児童と共有し、単元学習後には自己の成長を児童自身が自覚できるように適切に評価し、価値つけていく。 ②児童の考えを引き出し、問題解決に向かって教師が進行役を果たしながら単元開発を進める。 取組の継続・充実 ③課題発見・解決学習に必要な能力の育成のために有効であった手立ての活用を今後も継続し、いずれは児童が積極的に活用できるようにしていく。	4			・適正に評価されている。 ・コロナ感染対策など様々な対応の中、教育現場でできることを工夫し、目標達成に向けて教育活動に取り組んでいる様子がよく分かった。 ・漢字への興味が以前に比べて増していると感じる。漢検の取組の成果だと思う。 ・子どもたちの一年間の成長をすぐく感じる。今後にも個に応じた指導等に努めてほしい。
			1 「漢検」受検経験を生かした漢字学習を展開する。 2 既習事項を踏まえた学習活動の設定を図る(国算理)。	・漢字テスト(単元末、学期末等)の正答率95%以上 ・既習事項を踏まえて学習を行った授業の割合	80%	82.2%	92.1%	100%							
豊かな心と健やかな体の育成	自他を大切にしながら、切磋琢磨し合う学校風土の醸成	他者の良さを頑張りにつづき、学び合う雰囲気形成(継続)	1 各自の得意なこと、上手なことを推薦し合い、「〇〇マイスター」として認定し、廊下へ掲示する。	・他者の頑張りにつづき、推薦できる児童の割合 ・他者の頑張りにつづき、自らの取組に生かした児童の割合	達成児童100% 達成児童70%	94%	100%	100%	B	①児童総会において推薦する時間を設けるなど、各学級ごとに「〇〇マイスター」として他者の頑張りをつづき、互いに姿が見られた。また、廊下に掲示し「見える化」することで、肯定的に認め合うことができた。 ②マイスターの児童に憧れ、自らの取組へと生かす児童が一定数現れている。(13人中9名)	学校の伝統への拡充 ①3カ年を通して、学校全体でマイスター認定週間(日)を設定し、互いに認め合うという学校の特色ある取組となった。3カ年を経て、継続がまた違った取組にしていけるかを次年度に向けて吟味していく。 ②「弟子入り(自己の取組に活かしている)が明確になるような掲示をし、取組の見える化を図ったり、教師からの積極的な価値づけも行っていき、それぞれの取組についての振り返り(フィードバック)の充実 ①様々な目標を個々にファイルに綴じたり、「見える化」したりすることで、児童自身に加え、友達など他者からにおいても相互評価できる取組は継続していく。一方、さらに伸び成長しようとする意欲を持たせる仕掛けも新たな視点で取り入れていく。	4			・適正に評価されている。 ・マイスター認定の取組が、子どもの自己肯定感を高めることにつながっていると感じた。 ・マイスターの子どもにも憧れ、自己の取組に生かしている子どもの姿が見られることがすばらしい。
			自身の立てた目標に向けて、努力を惜まない児童の育成(継続)	1 年間の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)	達成児童80%	86%	100%	100%							
信頼される学校	佐木島の学校として地域住民の心の拠り所となり、必要とされる存在となる	本校に対する住民等の関心の持続・向上	1 児童のメッセージ、学校生活の様子(写真)等をまとめた便りを作成し、配布・掲示する。 2 可能な範囲で、学校を公開する。	・「さぎっ子応援団」の新規登録・登録更新数	登録家庭・事業所数 昨年度比±10%	50.2%	50.2%	50.2%	D	①・感染対策を講じて発表参観日を地域に公開し、多くの地域住民に学校生活の様子を知っていただくことができた。2学期分の掲示物を各地区に回覧し、喜びの声をいただいた。 ・「さぎっ子応援団」の新規登録・更新数は伸びなかったが、今年度は応援団登録の地域住民と児童とが関わる場を設定したことで、地域と学校とのつながりがより深くなった。	①・感染対策を講じて発表参観日を地域に公開し、多くの地域住民に学校生活の様子を知っていただくことができた。2学期分の掲示物を各地区に回覧し、喜びの声をいただいた。 ・「さぎっ子応援団」の新規登録・更新数は伸びなかったが、今年度は応援団登録の地域住民と児童とが関わる場を設定したことで、地域と学校とのつながりがより深くなった。	4			
			教職員の勤務時間外在校時間の維持(年間360時間以内)	1 緊急時を除き、勤務時間外の用務を設定しない。 2 勤務時間内に事務処理時間を確保する。 3 校務支援システムを効果的に活用する。 4 効率的な職務遂行を推進する。	・個別の勤務時間外在校時数の積算	月30時間×実施済月数以下100%	72.5%	72.5%							

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100

C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価

は適正でない。ハ:分からない。